

令和4年度 第3回 鴨江小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年2月14日（火）13時30分から15時20分まで
- 2 開催場所 鴨江小学校 3階会議室
- 3 出席委員 二村 弘、青木 孝志、大渡 三千子、杉浦 久仁枝、井上 泉、
齊藤 浩二、山下 亮、山本 高之、田中 新治
- 4 欠席委員 大石 慶太
- 5 オブザーバー 桐澤 裕貴
- 6 学校支援コーディネーター 山口 利恵
- 7 学校 渡辺 紀（校長）、安藤 靖之（教頭）、倉田 智幸（教務主任）
- 8 傍聴者 1人

9 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 来年度の学校運営の基本方針の説明
- (3) 学校運営協議会の自己評価について熟議

10 会議録作成者 教頭 安藤 靖之

11 会議記録

司会の安藤 靖之（教頭）から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

倉田教務主任から、学校関係者評価について報告があった。

- 保護者・児童・職員は、児童が意欲をもち、自分から進んで学習し続けていると評価している。

改善策：課題解決したくなるよう導入を工夫したり、ゴールを明確にした単元づくりを行ったりすることを通して、意欲をもち、自分から進んで学習し続ける児童を育てる。

- 本校の職員は、様々な人とかかわり、よりよい考えを見つける力を、もっと身につけさせたいと考えている。

改善策：相互交流の場を設けたり、タブレット端末を活用して意見を共有したりして、様々な人とかかわり、よりよい考えを見つける力を付ける。

- 保護者は、誰にでも進んで自分からあいさつをする習慣をつけてほしいと感じている。

改善策：「あいさつプロジェクト」の実施や学級でのあいさつの啓蒙等を通して、あいさつする習慣を身に付ける。

- 保護者と職員は、もっと粘り強く挑戦し続ける力を付けてほしいと願っている。

改善策：自己肯定感を高める活動や、試行錯誤して取り組む場の設定等を通して、粘り強く挑戦し続ける力を付ける。

(2) 来年度の学校運営の基本方針について、渡辺 紀（校長）より説明があった。

- 国の求める資質・能力・・・社会的に自立、多様性、自己を変容し続ける
社会の求める資質・能力・・・コミュニケーション能力、主体性、課題解決能力

○ 学習指導要領に示された目指す児童の姿

以上の点から、本校児童の実態を踏まえ、学校目標を「自ら考え共に高め合う 心豊かで健やかな子」とした。

(3) 学校運営協議会の自己評価について熟議

- 学校運営の基本方針についてグランドデザインを基に共通理解できたと思う。PDCAのサイクルが分かりやすくよい。しかし、コミュニケーションの場を学校から提供していただいているが、時間がなく、学校に来ることができない。(齊藤委員)
- 学校事務局の丁寧な説明・提案と協議会での議論において、自分としては学校運営の基本方針の概要については概ね理解できたと考えている。今後は、委員全員の共通認識のレベル合わせと、課題の解決にさらに踏み込んだ意見が出せるようにしたい。(二村委員)
- 自分としては学校運営に資する活動の概要も概ね理解できたが、日常的に子供たちと接しているわけではないので細部については不透明で、評価が難しい。また、限られた時間の中での熟議は難しい。(青木委員)
- グランドデザインに鴨江小の教育ビジョンのベクトルが示されている。ワークショップ形式で現場職員とコミュニケーションの場を設け、運営協議会委員と学校職員がグループになり話し合いができたのは有意義な活動だった。もう少し時間が欲しいのと、また違ったテーマで実施してほしい。(山下委員)
- 学校の活動が十分理解できていなかった。参観会などに委員自身が自分から関わるようにしたい。(大渡委員)
- 子供、親、地域や学校関係者が積極的に触れ合える機会を作りたい。(杉浦委員)
- 子供たちが安全な学校生活を送るために何ができるかを考え、学校支援ボランティア代表として声掛けをしていきたい。グランド整備等、こんなボランティアがあったらよいという意見をいただきたい。(山本委員)
- 学校の運営方針に基づいて協力していく。(田中委員)

その他報告事項等

司会の安藤靖之(教頭)から、「夢育やらまいか事業」報告があった。

司会から、次回会議は、2023年2月14日(火)午後1時30分から会議室で開催する旨報告があった。